

たいせつな時間は、写真の中で生きている。

無言の応援歌が聞こえる1枚の写真



2歳のとき、故郷ブラジル・サンパウロ郊外のサッカー場で撮影したスナップ。
サッカーが大好きで、ひたむきにサッカーに打ち込む少年だった。

これは2歳のときの写真。大のサッカーファンだった父の影響で、僕は赤ん坊のときからサッカーボールで遊んでいた。サッカーが大好きで、10歳のときにはすでにサッカーで身を立てる決心をしていた。しかし、ブラジルでは競争が激しく、夢を実現できるのかという不安を常に抱えていたのだ。日本の高校からスカウトされたときは、日本でならと迷わず決意した。ところが、日本の文化や風習になかなか馴染めず、日本語もわからなくて、この世にいるのは自分ただ一人ではないかという孤独感に苛まれた。最初の1年は、これまでの人生で一番辛い時期だった。そんなとき僕を助けてくれたのはサッカーだ。サッカーに打ち込めば辛いことを忘れ、希望が

湧いてきて、サッカーを通して人々との理解も深められた。そして今僕は、日本のJリーガーとして活躍できることに心から感謝している。僕が日本に帰化したのは、そんな今ある僕を支えてくれた全ての人たちの恩に報いるには、日本のサッカー選手として活躍することしかないと思っただからだ。

この写真は、そんな僕のサッカー人生を物語る大切な1枚。またサッカー選手になるなんて、考えてもいなかったはずなのに、ボールに足を置いた姿は、そのまま今の僕に繋がっている。そして、この写真を見るたびに、そこにいる2歳の僕が「もつと頑張れ！」と無言のプレッシャーをかけてくる。それに答えて僕はいつも奮い立つ。サッカーの頂点を目指そうと。

田中マルクス闘莉王



p r o f i l e

● Marcus Tulio Tanaka
1981年ブラジル生まれの日系3世。2001年千葉県渋谷幕張高校からJリーグサンフレッチェ広島に入団。2002年サンフレッチェがJ2に降格し、外国人選手の保有枠に触れることから2003年はJ2の水戸ホーリーホックにレンタル移籍。2003年10月に日本に帰化し、2004年J1の浦和レッズに移籍。アテネオリンピック日本代表にも選ばれた。

edit by Junko Suzuki